

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

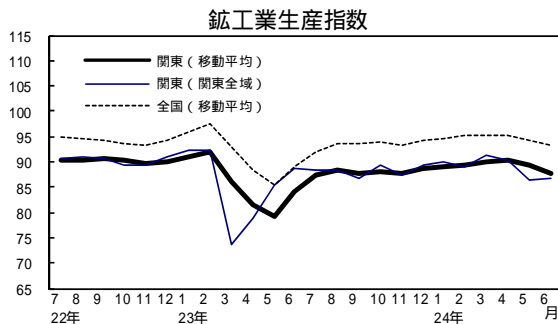
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 5 月)	今回 (平成 24 年 8 月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	持ち直しのテンポが緩やか	
鉱工業生産	持ち直しの動き	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	緩やかに持ち直し	持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

輸送機械は、エコカー補助金の関係で乗用車が伸びているものの、一部、車部品で欧州債務問題の影響等による生産減がみられたこと等から減少している。一般機械は、電子部品・デバイス関連が不調で半導体製造装置が生産減となったこと等から減少している。電気機械は、発電所向けに開閉制御装置等が増えたこと等から増加している。



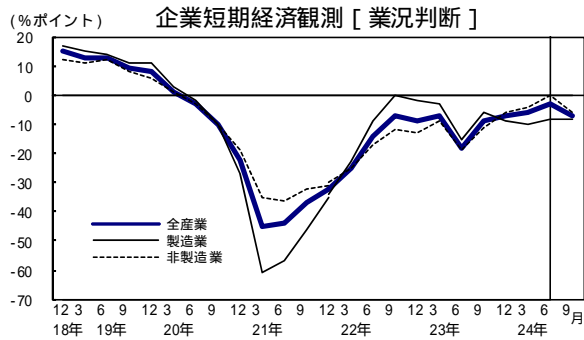
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

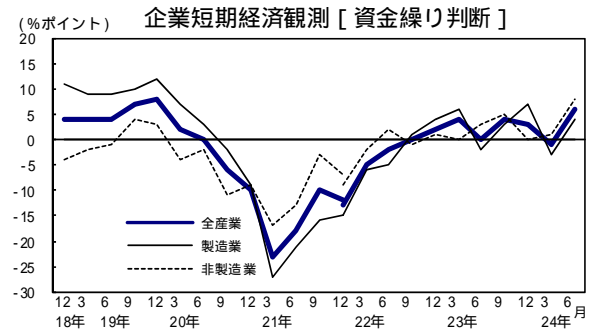
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	15.2	5.7	4.7	4.2	16.6
化学	13.4	4.9			
一般機械	13.2	5.5	0.1	1.9	9.2
電気機械	7.8	6.0	0.1	0.9	4.1
食品・たばこ	7.1	3.3			
鉱工業	100.0	1.6	2.4	1.1	6.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4~6月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

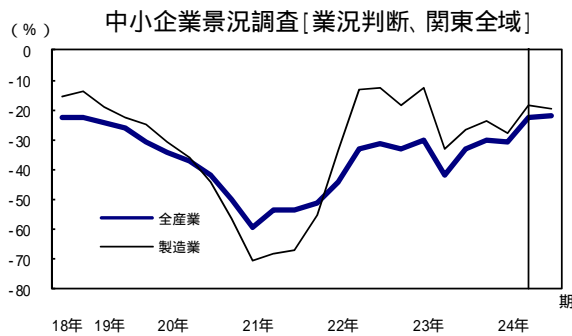
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

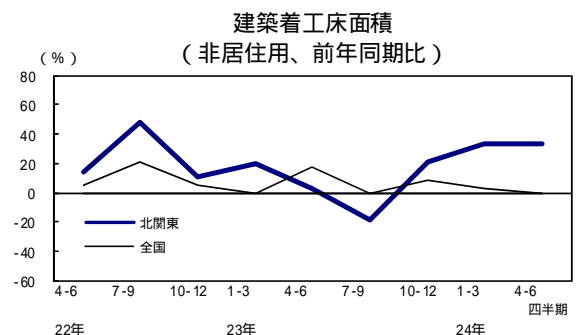
「製造業では海外景気の減速や収益面の回復の遅れなどから企業の業況感は足踏み状態にあり、非製造業は予想ほど落ち込まなかったが、天候不順や受注競争の激化などから業況感が低下している(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	22.1 (5.3)	3.9 (13.1)
製造業	31.8 (0.0)	7.5 (9.6)
非製造業	5.6 (18.9)	3.7 (22.6)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

大型小売店販売額

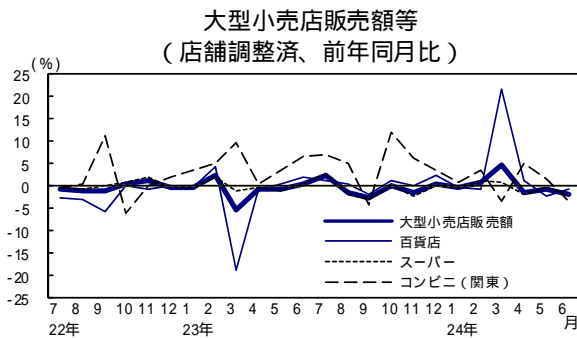
大型小売店販売額は、前年同期比で1.2%減、前期比で0.1%増となった。

百貨店は、4月は、主力の衣料品が春物ファッションや今年早くに動き出したクールビズ関連商品が好調だったこと等から、前年を上回った。5月は、母の日ギフトで「婦人・子供服・洋品」は好調だったが、昨年よりも休日日数が少なく来客数が減少したことにより前年を下回った。6月は、天候不順などの影響により夏物衣料の動きが鈍く「婦人・子供服・洋品」が全般的に低調だったこと等から前年を下回った。

スーパーは、天候不順や昨年の震災関連特需の反動で飲食料品が不調だったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「エコカー補助金で新車販売が一時的に好転したが終了が見え、しわ寄せ的に現在、販売が落ち込み傾向にある(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	0.5	0.2	1.8	1.2
百貨店(*1)	0.1	1.4	6.5	0.6
スーパー(*1)	0.6	0.6	0.7	1.4
大型小売店(*2)	1.9	2.0	3.2	0.8
(季節調整値)(*3)	(0.1)	(0.2)	(0.6)	(0.1)
乗用車(*4)	21.8	21.4	50.1	73.4
(季節調整値)(*4)	(33.7)	(7.4)	(24.5)	(1.5)

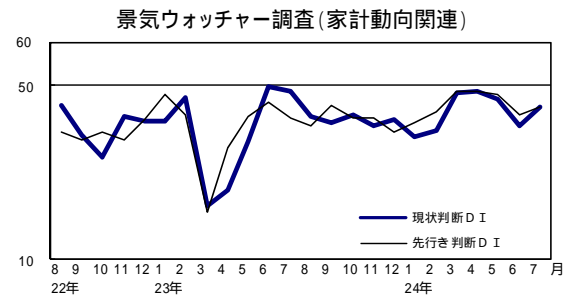
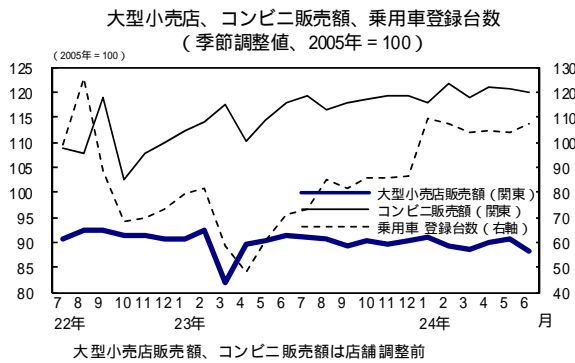
(備考)1.北関東地域、店舗調整済、前年同期比(%)、4-6月は速報値

2.北関東地域、店舗調整前、前年同期比(%)、4-6月は速報値

3.関東全域、店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は新規登録・届出台数

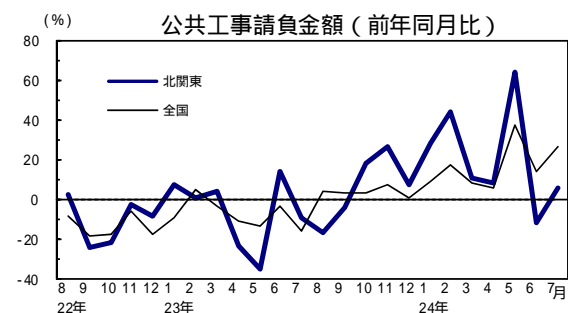
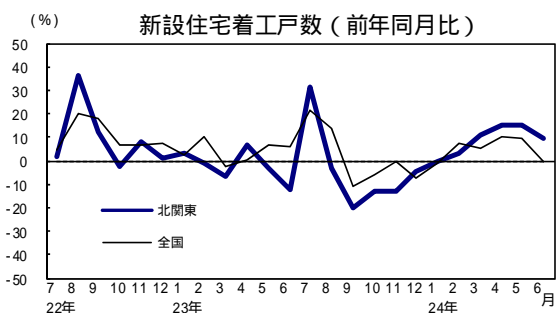
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、持家、分譲で前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は24年度累計でみると前年度を上回っている。

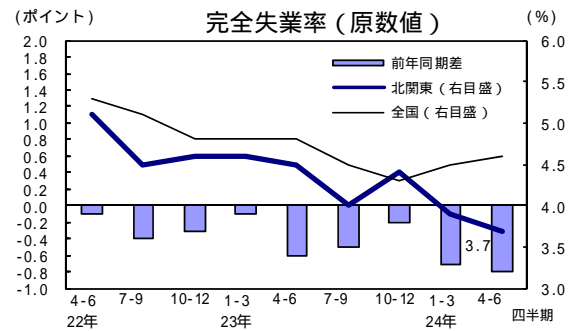
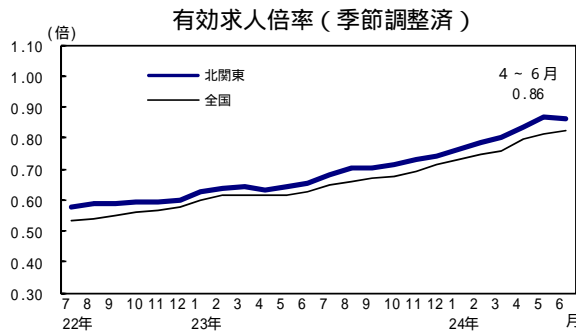


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

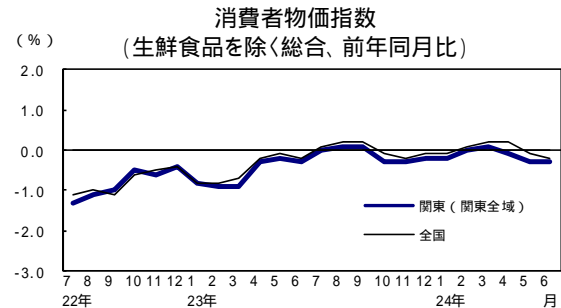
「建設業は特に悪く、近郊でも中堅の建設会社で倒産した所がある。全体の企業を見ても景気は低迷のままで、求人も厳しい状況である（求人情報誌製作会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年7-9月	10-12月	24年1-3月	4-6月	24年7月
倒産件数	146	156	159	158	41
(前年比)	18.9	8.2	5.9	14.6	21.2
負債総額	4,701	1,015	396	502	69
(前年比)	365.1	89.8	7.7	34.0	53.6



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- この7月も暑さが厳しく、冷たい飲物やアイスクリームなどを中心に、月の後半は非常に出荷が多かったことが、他の需要も引っ張ったようである（コンビニ）

<先行き>

- 円高で国内の製造業が海外に行ってしまうなかで、国内の下請業者は価格面で相当たたかれており、非常に収益面で厳しくなっている（金融業）

